

**(仮称) 八戸市民による文化芸術の推進のための基本計画策定に係る  
民間文化芸術団体等ヒアリング調査の結果について**

1. 調査期間：令和3年2月3日～令和3年2月12日
2. 調査対象：・民間5団体・2個人（演劇団体1、音楽団体1、伝統芸能1・伝統工芸士1、ストリートダンス1、福祉関係2）
  - ・八戸市文化協会及び所属14団体（文芸部、芸能部、美術部、華道部、茶道部、生活文化部）
  - ・VISIT はちのへ

3. ヒアリング調査により出された課題・意見

1. 当市の文化活動の現状についての認識

① 公共施設等について

- ・観光スポットや各文化施設が集積していないため、市外の人に案内しにくい。
- ・公共施設（はっちやまつりんぐ広場等）は、どう活用できるのか、コンセプトが伝わりにくく、若者が気軽に利用できる体験や飲食などのコンテンツがないと感じる。
- ・はっちでは「見せる→興味をもつ」までの流れはあるが、その先の「取り組んでいる人とつながる・会いに行く」方法が見えない。
- ・はっちやマチニワなど、スペースがたくさんあるのに活用されていない。

② その他文化芸術について

- ・演劇は活発ではないが、音楽やダンス、まちづくり等に関しては活発だと思う。
- ・八戸の文化芸術活動は際立った特徴や活発であるという印象がない。
  - ⇨ 市外の人や他都市から移住してきた人から「八戸は文化活動が活発だ」という話を聞く。
- 【複数意見有】
- ・伝統文化親子教室など、次代を担う子どもたちのための事業を実施しているが、市にそれが伝わっていない・連携できていない。
- ・学校と連携したいという気持ちはあるが、どうすればいいのか、どこに相談すればいいのかわからないため、市が学校と各団体を繋ぐ仕組みがあると良い。【複数意見有】
- ・練習や発表の場の確保が難しい。また、希望する設備がある施設がない。【複数意見有】
  - ⇨ 八戸は文化施設や団体が多く、「受け皿があるまち」だと思う。
- ・生徒が大学進学や就職とともに教室をやめてしまったり、八戸を離れてそのまま戻ってこない。
- 【複数意見有】
- ・八戸は新しい取組を行うが、その取組が続かないイメージがある。
- ・菱刺しについてはプラットフォームがなく、各団体や個人で動いている。
- ・えんぶりや三社大祭、地場産品などの観光コンテンツとしての商品化はVISITの役割であると捉えている。
- ・団体のNPO化について、市民連携推進課に相談しているが手続きが煩雑で、進んでいない状態である。

## 2.文化芸術活動全般について

- ・高齢化や後継者不足が問題であるため、担い手や支え手の育成がまずは必要である。【複数意見有】
- ・様々な分野で後継者不足が課題となっているかと思うが、受け入れる側にも問題があると感じる。伝統芸能やそれ以外の文化芸術活動でも、敷居が高いという印象があるため、団体側にも変わっていかうとする気持ちが必要である。【複数意見有】
- ・はっちなどの施設や空き店舗などを活用して、一定期間はどこに行っても文化芸術に触れることができる八戸芸術祭のような取組があっても良いのではないかと。【複数意見有】
- ・文化芸術全般について気軽に相談できる窓口があると良い。
- ・集まりやすい場所、バスなどの公共交通機関を利用してこられる場所で活動を行うことが必要である。
- ・中央で有名になった人に安易に飛びつくのではなく、地元にもっと優れた人材がいる場合があるので、地元で根差して活動している人材を大いに活用することが大切である。
- ・山車小屋はできるだけ町内、またはその近くに確保してほしい。子どもたちや製作者が集まらず、やがて途絶える恐れがある。
- ・文化と観光は密接な関係にある。
- ・文化だけ、産業だけ、ではなく、全てが一緒に向上するような仕組みが必要である。

## 3.情報発信について

- ・HP（オンラインショップ）の充実やSNSによる発信の強化が必要である。
- ・どこでどのような活動をしているのかわからないため、情報が一目でわかるような媒体が必要である。（例：菱刺しマップ）【複数意見有】
- ・各団体だけの情報発信だとなかなか浸透しないため、市や各団体のイベント情報等を一覧で見ることができるものがあると良い。【複数意見有】
- ・VISIT では、HP 内で体験（食・宿・交通など）を予約・購入できるような仕組みの構築を進めている。
- ・ワークショップを開いても、参加するのが関係者や知人ばかりで新たな参加者の発掘になっていない。

## 4.アーティストバンクについて

- ・良い制度だと思う。【複数意見有】
- ・登録されている団体が何を求められているのか（指導・募集・請負等）によって、登録するかどうか違って来る。
- ・若年層の利用が主であると思うので、スマホで簡単に利用登録ができるなど、手軽さが重要である。
- ・自分が求めている技術（照明や写真）を持っている人の情報を知る手段となる。
- ・各専門分野にどういうすぐれた人材がいるのかを洗い出し、リストアップして、公的機関を中心に市外・全国にPR、各種講座の開催、教育等への活用などを図ってほしい。
- ・知らない分野や人を知ることができるものとして活用したい。

5.各専門分野について
(1) 演劇分野の課題・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・はちのへ演劇祭の活動により活性化はされてきたものの、活発であるとは言えない。</li> <li>・後継者の育成（演者や舞台技術、大道具や衣装制作等の舞台スタッフ）</li> <li>・演者、裏方スタッフの高齢化</li> <li>・稽古場の確保（公演日までの約3ヶ月その9割が稽古期間であるため、稽古場の確保やそれに伴う費用の捻出）</li> <li>・舞台製作場の確保（大道具、小道具、美術、衣装等の制作場所の確保やそれらに係る費用の捻出）</li> </ul>
(2) 音楽分野（オーケストラ、楽団）の課題・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型打楽器（ティンパニーや大太鼓、木琴など）や40年分の楽譜などの恒常的な保管場所不足</li> <li>・演奏会場（八戸市公会堂）の確保</li> <li>・プロのクラシック団体を主催して呼ぶことができなくなっている。</li> <li>・合唱は、市民が多数参加できる形であり、維持していきたい。 例：3年間隔くらいで、知名度が高い「第9（ベートーベン）」と「メサイア（ヘンデル）」などをアマチュアのオーケストラと合唱団で演奏する。</li> <li>・どのような演奏会をどのような周期で行うのかについて、ビジョンを持って、計画を立てて行う必要がある。</li> </ul>
(3) 伝統工芸分野の課題・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者の育成（作り手の安定） ※制作→販売が生業となるような仕組みづくり、支援、補助があればありがたい。</li> <li>・観光分野との連携強化による販路の拡大（三社大祭やえんぶりなどのお祭り期間中にまちなかで販売できる仕組みづくりや、市内ホテルなど観光客が手に取りやすい・購入しやすい場所での販売など）</li> <li>・市内外の団体間の連携強化</li> <li>・美術館との連携ができると良い（ワークショップの共同企画の立案・実施、商品の販売など）</li> <li>・伝統工芸等について、商品化への支援が必要である。 例：「首都圏主婦モニター調査」を行うための補助制度</li> </ul>
(4) ストリートダンス分野の課題・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内では、八戸はストリートダンスが盛んである。</li> <li>・高校卒業後の受け皿（専門知識を学ぶ育成機関や就職先）がない。ダンスを習っている生徒でも、ダンス以外の映像制作等裏方の仕事に興味を持つ子や、イベントMCなどが上手い子などいろいろな才能を持った生徒がいるが、それを磨く場あるいは仕事として活かせる場が無い。</li> <li>・映像配信・オンラインイベント等の普及により、機材があればどこでもステージ（発表する場）ができるようになり、人が集まるイベント（ステージ）にこだわる必要が無くなった。これからはイベント主催者が出演者を選ぶ時代は終わり、魅力あるイベントでなければ出演者から選ばれないという時代になっていくと感じる。</li> </ul>
(5) 福祉分野の課題・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の場合、1人で文化施設等に行くことができない人も多く、付き添う保護者や施設等が積極的でないと触れる機会が少ない。</li> </ul>

- ・市内に文化活動のために利用したいと思う施設が少ない。(はっちは狭い、南郷文化 H は遠いなど) しかし、こどもはっちのオレンジデーは非常によい取組だと思う。
- ・障がい者の主な収入は障害年金で、障がいの程度によっては作業場などでの就労により数万円程度の工賃収入を得ている人もいる。グループホームに入所している人などは、ホームの利用料金やその他生活費を支払うのに精一杯で、文化芸術分野にまでお金を回せない人が多い。
- ・障がい者及びその支援者(家族、施設職員)が気軽に参加できるイベントが無い。(声を上げる、寝転びながら観る、一緒に歌う・踊る、途中退席 OK なコンサート、作品に触れられる美術館企画など)
- ・文化芸術施設にも作品等に自由に触れるコーナーや障がい者が作成した作品のみを展示する部屋などがあれば、障がい者のなかにも「やってみよう」と思う人が増えるかもしれない。
- ・施設のバリアフリー化整備をする際は障がい者(当事者)の意見を取り入れるべき。身体障がいでも障がいの種類は様々で、通路を広くすれば良い、スロープを作れば良いといった単純なものではない。

#### (6) 伝統芸能分野における課題

- ・えんぶりや三社大祭について、本番以外閉鎖的に感じる。練習や山車作りの期間中、何をしているのか分かりづらい。体験の場が組に参加すること以外無いことや、若者に興味を持ってもらえるようなコンテンツが無く、もったいない。